



コミュニケーションツールとしての疾患統計・5 チワワと神経疾患

島村麻子（アニコム ホールディングス株式会社）

チワワ

原産国	メキシコ
起源	19世紀
コンパニオン・ドッグ	
体重	1～3 kg
体高	15～23 cm



写真提供：松本麻衣

チワワ

生息地が暑いところであればあるほど体格が小さくなるというベルクマンの法則がある。確かに、超小型犬のチワワ（Chihuahua）は、暑さの厳しいメキシコ・チワワ市生まれだ。メキシコの先住民トルテカ族は自らの宗教観から、チワワの先祖と考えられている古代犬テチチを大事にしてきた。そのため、原種の性質が維持され、おそらくそのうちの1～複数頭をアメリカ人が連れて帰り、より小型に改良固定して今のチワワになったようである。そして1904年、テキサス州のRaynor氏によってAKC（アメリカンケネルクラブ）に初めてチワワが登録された。その子の名は、チビという意味のMidget（ミジエット）。ちなみに、原種は短毛種のスムースコートで、ロングコートはパピヨンやポメラニアンを交配してつくられた。

身体の大きさ以外に、チワワの外見的特徴としては、「アップルドーム」と呼ばれる頭部があげられる。このチャームポイントともいえる丸みを帯びた頭には、開いたままの泉門が多くみられる。

表1 チワワの罹患率

	チワワ 88,553頭(a)	犬全体 681,039頭(b)	a/b
循環器疾患	7.5%	4.3%	1.8
神経疾患	3.3%	1.9%	1.7
呼吸器疾患	3.4%	2.2%	1.5
肝・胆道疾患	3.6%	3.0%	1.2
歯・口腔疾患	2.4%	2.1%	1.1
生殖系疾患	1.9%	1.9%	1.0
筋骨格系疾患	5.8%	5.8%	1.0
眼の疾患	8.6%	9.3%	0.9
消化器疾患	11.1%	12.7%	0.9
内分泌疾患	1.2%	1.6%	0.7
損傷	2.8%	4.0%	0.7
感染症	0.7%	1.0%	0.7
寄生虫症	0.6%	1.1%	0.6
泌尿器疾患	3.4%	5.8%	0.6
耳の疾患	7.9%	14.6%	0.5
皮膚疾患	11.5%	22.1%	0.5
腫瘍疾患	2.8%	6.3%	0.4
血液・免疫疾患	0.1%	0.4%	0.3

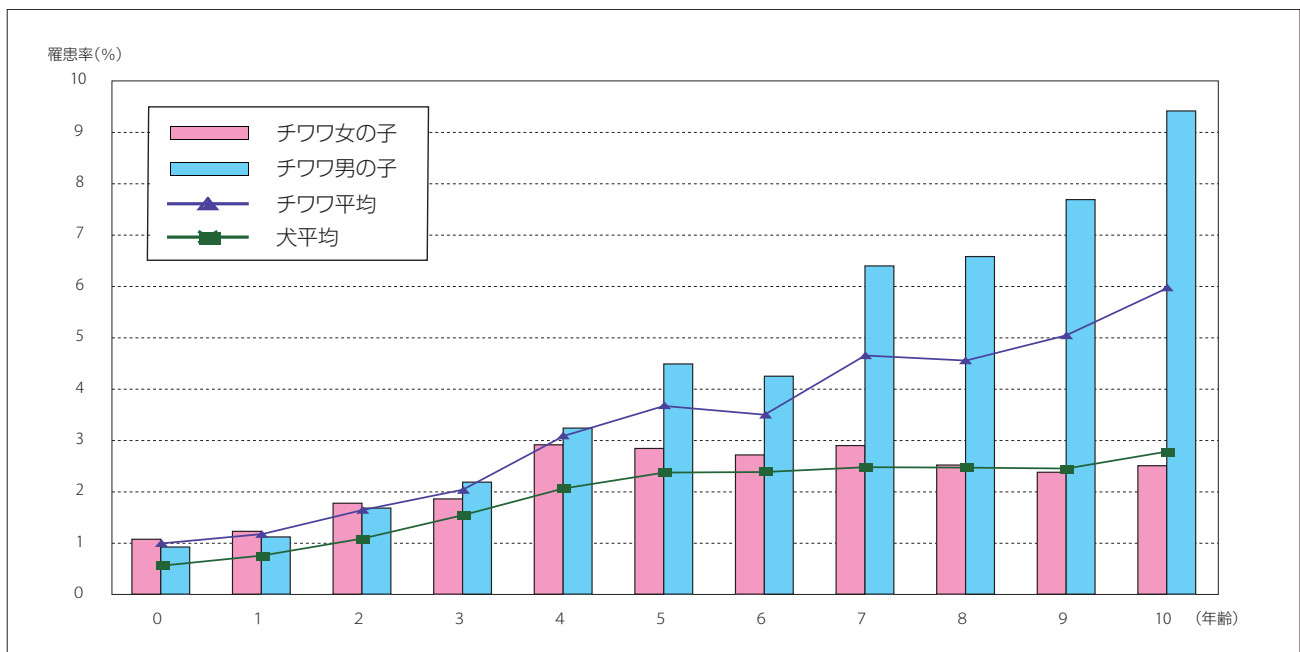


図1 神経疾患の罹患率の年齢推移 (チワワと犬全体)

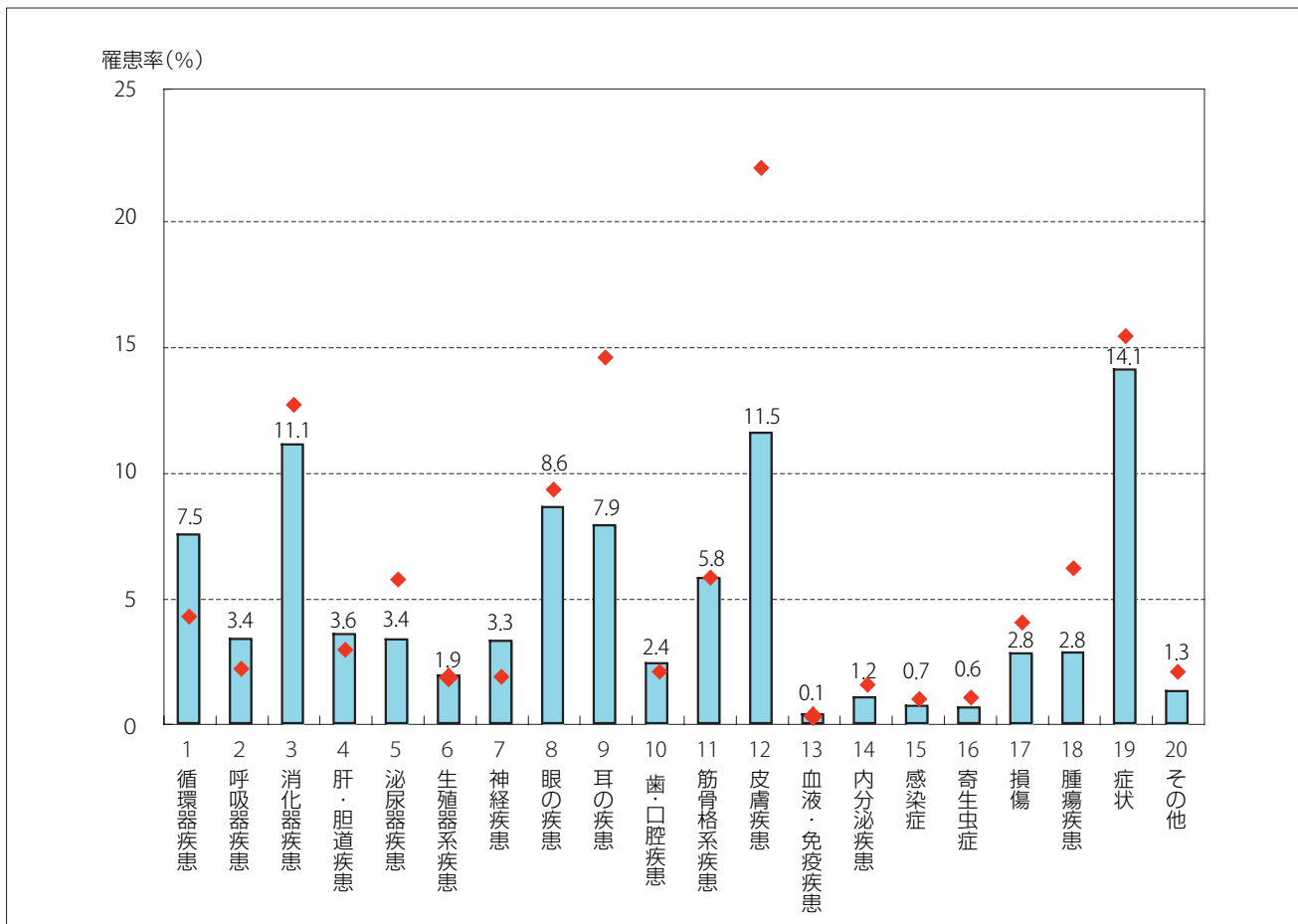


図2 チワワ (0~10歳) の罹患率 (◆は0~10歳、犬全体の罹患率)

チワワの疾患統計

2004年4月1日~2008年3月31日までにアニコムクラブに加入した88,553頭のチワワ(0~10歳)の神経疾患の罹患率3.3%は、犬全体の罹患率1.9%と比較して1.7倍の高い値を示していた(表1)。その他、チワワにおいて犬全体の罹患率より高い値を示した疾患について、チワワの罹患率と、それが犬全体の罹患率の何倍にあたるかを示した。

- 循環器疾患 7.5% (1.8倍)
- 呼吸器疾患 3.4% (1.5倍)

あんなに小さな身体であるにもかかわらず、原種に比較的近いからか、犬全体の平均よりも高い罹患率を示す疾患は少ない。犬全体では高い罹患率を示す皮膚疾患や耳の疾患が、チワワでは低い値を示している。ほかにも、腫瘍疾患が、犬全体の平均罹患率6.3%に対してチワワの罹患率は2.8%、泌尿器疾患が、犬全体が5.8%に対してチワワは3.4%と低い値を示している(図2)。

表3 犬(0~10歳)の神経疾患の罹患率

	頭数	罹患率
男子	364,423	2.2%
女子	316,616	1.7%
全体	681,039	1.9%

表2 チワワの性別罹患率(上位6疾患)

疾患名	チワワ		a/b
	49,326頭(a)	364,423頭(b)	
男子			
神経疾患	4.4%	2.2%	2.0
循環器疾患	8.3%	4.7%	1.8
呼吸器疾患	3.1%	2.2%	1.4
肝・胆道疾患	4.0%	3.0%	1.3
眼の疾患	9.5%	9.5%	1.0
歯・口腔疾患	2.1%	2.2%	1.0
女子			
循環器疾患	6.7%	3.9%	1.7
呼吸器疾患	3.6%	2.2%	1.6
神経疾患	2.2%	1.7%	1.3
歯・口腔疾患	2.6%	2.1%	1.3
生殖系疾患	3.1%	2.8%	1.1
肝・胆道疾患	3.2%	3.0%	1.1
筋骨格系疾患	5.7%	5.5%	1.1



専門家に聴く「チワワの神経疾患」

「チワワの神経疾患といえば、水頭症？」しかし、日本獣医生命科学大学獣医放射線学教室長谷川大輔先生は、『チワワの神経疾患＝水頭症』と短絡的な判断は困る。てんかんや脳炎だって多い。COMS (Caudal Occipital Malformation Syndrome、後頭骨尾側部奇形症候群) の可能性もある」とのコメント。確かに、アニコムに神経疾患として請求のあったチワワ896頭の内訳を絶対数でみてみると、てんかんが一番多く515頭 (58%)、続いて、水頭症237頭 (26%)、脳炎58頭 (6%)、その他86頭 (10%) となっている。なお、水頭症については、犬全体の罹患率0.1%に対してチワワの罹患率は0.3%と高い値を示しているため、チワワに水頭症が特徴的と表現すること自体はさしさわりのないと考えられる。

水頭症の犬には、身体的特徴がある。アップルヘッド、外腹斜視、泉門開存。まさに、チワワの特徴でもある。もちろん、これらの特徴があるからといって必ずしも水頭症を発症するというわけではない。しかし、水頭症の初期症状としては、いわゆる発作というよりも、知能・性格の変化がみられることが多いようなので、これらの外見的特徴をもった犬を飼い始めた飼い主に対して、事前に説明することは重要なことである。同腹犬よりも成長が遅い場合は、特にである。できていたしつけができなくなるような知能の変化や、怒りっぽくなったり、逆に大人しくなったりというような性格の変化などがある場合には、早めに来院するように伝えておきたい。「知能や性格の変化＝病院に相談するもの」という図式は、飼い主の頭のなかにないため、事前に伝えておかなければ来院機会が遅れる。

また、頭をぶつけるなどの些細なきっかけで、発作などの大きな症状につながってしまう可能性があることも、飼い主を過度に慌てさせないために事前に伝えておく必要があるだろう。飼い主の意識向上を図るためにも、泉門開存をみつけた時点で超音波検査で脳室の確認をし、その後のフォローアップにつなげていくことも有用だろう。

チワワに発作がみられた時、門脈シャントなどの代謝性疾患との鑑別がまず必要だ。そして、理想をいえば、MRIで鮮明にCSF 流通路を評価してあげたい。水頭症であれば、閉塞部位、浮腫の評価で脳圧亢進の有無、脊髓空洞症の併発の有無まで確認できる。もちろん、脳炎をはじめとした水頭症以外の疾患との鑑別にもなるし、病態に基づいた治療方針を組み立てるためには理想的であろう。しかし、その一方で、MRIには麻酔が必要である。麻酔薬は神経に作用する以上、神経症状が悪化する可能性は否めない。時間的経済的コストもかかる。ここでも、飼い主との密な対話が重要だろう。

神経疾患は、全体的に発症率自体はそう多くはないものの、発症した時の飼い主の精神的負担は想像以上に大きい。飼い主へのサポートが、とても重要になる。

突撃レポート

～疾患統計の活かし方；スウェーデンの例～

7月1～4日、第12回IAHAIOひとと動物の絆に関する国際会議に参加した。会場は、スウェーデンの首都ストックホルム。スウェーデンは、ペット保険の普及率85%というお国柄。その影響もあってか、ペット保険のデータに関連する発表が3題もあった。



第12回IAHAIOひとと動物の絆に関する国際会議ポスター

発表内容からは、スウェーデンも日本も疾患に関するデータに大きな差はなさそうに感じたが、おそらく詳細を比較してみると差が現れ、それはお互い予防対策等の検討に役立つだろうと考えられた。また、一番刺激を受けたのは、スウェーデンの大学、ケネルクラブ、保険会社がコラボレーションして、繁殖の時点から病気を減らそう、動物のQOLを高めようという試みだ。ぜひわが国でも取り組んでいきたい。



一番右がスウェーデン最大手動物保険会社 Agria

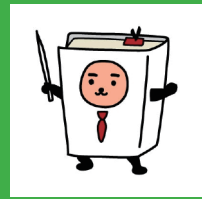
ペット保険とヒューマンアニマルボンドの講演

●問い合わせ先

より皆さまのお役にたてるよう尽力してまいります。ぜひご意見・感想をお寄せ下さい。

メールアドレス：hakusho@ani-com.com

飼い主さんとのコミュニケーションツールとして、どうぞお役立てください。



① 神経疾患が多い犬種は？

アニコム家庭どうぶつ白書によると、以下の犬種が、犬全体の「神経疾患」の罹患率よりも高い罹患率を示しています。

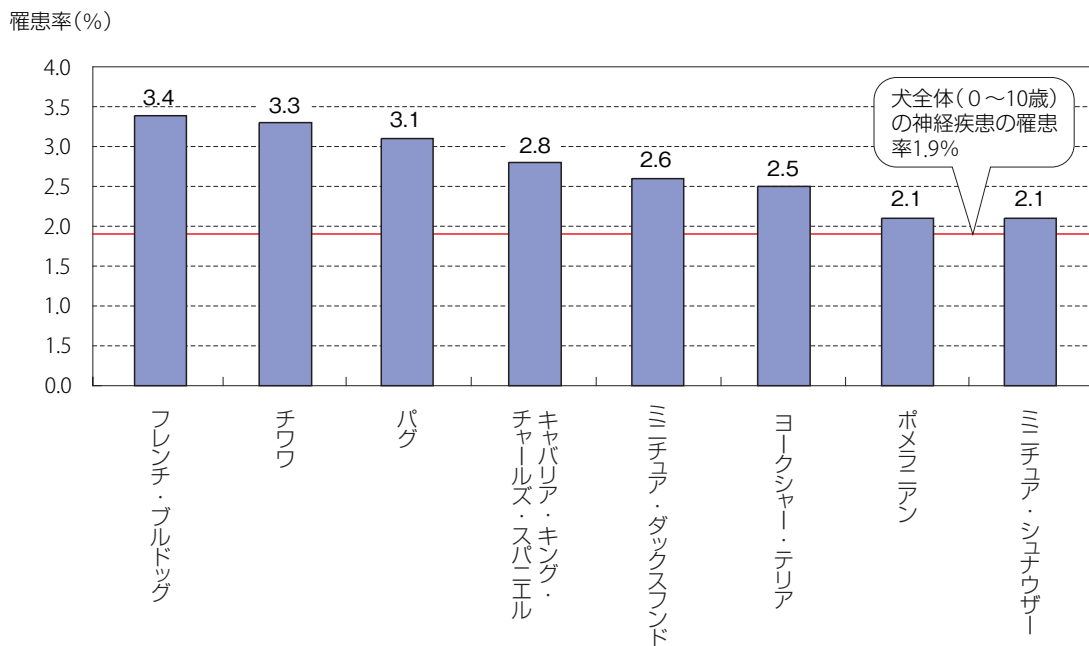


図 神経疾患の罹患率が高いおもな犬種

② 神経疾患

(1) 観察：いつもと異なる行動、性格の変化がみられた時にはすぐに気づけるよう、日ごろからよく観察しましょう。

水頭症の診断

身体的特徴

- アップルヘッド
(ドーム状の大きな頭)
- 黒目が中央でなく端っこに寄っている
- 頭のとっぺんに「ぺこ(頭蓋骨のすき間、泉門)」がある

症状

- 発育が遅い
- 一度覚えたしつけを忘れる
- 怒りっぽくなる
- 大人しくなる

必要な検査

- エコー検査
 - 血液検査
(できれば)
 - MRI
 - CT
- ※麻酔が必要

(2) 定期健診：かかりつけ医で、定期的にチェックしてもらいましょう。

(3) 交配への配慮：神経疾患は遺伝性が疑われるケースもみられます。神経疾患の発症歴を持った子を交配させようとする場合には、事前にかかりつけ医に相談しましょう。



● サイト「家庭どうぶつ白書」 家庭どうぶつの今を見られます。ぜひご覧下さい。
<http://www.anicom-page.com/hakusho/>